令和４年度　西米良村立　村所小学校　自己評価書及び学校関係者評価書

学校経営ビジョン 地域に根付く「菊池の精神」を背景に、「あたたかい関わり」と「見届け」を基盤とし、一人一人の個性を認め、伸ばし、望ましい行動を強化するとともに、児童が自分の成長を実感できる教育を学校、家庭、地域が一体となって推進する。

【評価基準　４段階評価　４…期待以上　３…ほぼ期待通り　２…やや期待を下回る　1…改善を要する】

評価項目	重点指導項目	方策・手立て	成果と課題	成果指標	自己評価 4 3 2 1	総合	改善策	評価	学校関係者評価委員の意見
1　確かな学力の定着	(1)　日常的な授業改善	①　学力テスト結果分析から、本校に求められている力（情報を整理・選択する力、論理的に説明する力など）を意識して授業する。※「令和3・4年度　各学年課題による対策表」の活用 ②　「西米良授業スタンダードモデル」、「西米良授業チェック表」を授業の根幹に、定期的な教師の自己評価を実施し授業改善に努める。 ③　授業では、補充・発展の時間の設定と毎時の目標達成に努める。 ④　下位層の児童の理解度を高めるため、中学校兼務講師（6年算数）と連携し少人数指導など学習形態を工夫する。また、教師の専門性を生かす一部教科担任制（交換授業）を試行する。	①全国学テを全教論で実際に問題を解き、傾向を把握するとともに、単元テスト・学力調査等の結果分析も日常の指導に生かすよう努めた。【2.9】 ②③「西米良授業チェック表」の各項目を重点化し、「定着の時間確保・個に応じた指導」への取組が向上してきたが、「本時目標達成」については、さらに意識して取り組む必要がある。コネクト学習のスタイルを生み出し、実践できた。【3．0】 ④中学校兼務講師（６年算数）における下位層の児童の底上げに努めたが、まだ個人差がある。を行うことができた。1年音楽と5年外国語の交換授業により、教師の専門性を生かした授業が充実した。【3.2】	②※教諭「西米良授業チェック」自己評価→「「定着の時間確保・個に応じた指導」85%、「協働的な学び」78%、「本時目標の達成」71 % ※保護者「各学年から出される宿題は、学力の向上につながっている。」 ◎52%、〇48% ※児童「先生は、わかりやすく教えてくれますか」 ◎77.6%、〇19.4%、△3% ※児童「宿題を忘れずにしていますか」 ◎61.2%、〇31.3%、△7.5%	3．0	3．1	①12月から「学びの確認」として過去・類似問題を定期的に解かせて問題に慣れさせる。また、情報を整理して文字数制限で文章化させる。授業では、教師の説明を減らし、子どものアウトプットの場面を確保する。今後「各学年課題による対策表」の見直しを図る。 ②③次年度も「西米良授業チェック表」を授業の根幹とし、特に「本時目標の達成」に努める。コネクト学習の共通実践を図り、補充・発展の時間確保に努める。 ④兼務教員との指導方法の共有、役割分担を明確にし、下位層の底上げを図る。今後も一部教科担任制（交換授業）を取り組み、教師の専門性を生かすとともに確かな学力の定着を図る。	4	学力差については学年で差があるということであるが、個別指導を充実させて、学力向上を行ってほしい。
	(2)　ICTの効果的活用	①　視覚的でわかりやすい授業を実施するとともに、1単位時間におけるICTの効率的・効果的な活用のもと、確実な学びの定着に努める。 ②　ICT支援員の活用及び教諭同士のOJTを推進し、教諭のICTスキルの向上を図る。 ③　小中連携した研究における共通理解・共通実践を図る。（県ICT活用先進校の指定） ④　個別最適化の学習に向け、授業や家庭でのAIドリルの積極的・効果的な活用を図る。欠席児童への学びを保障するオンライン授業を行う。※AIドリルの時間（朝の活動、週4回） ⑤　児童のICTスキル向上の時間の設定と活用を図る。　※ICTの時間（昼　週１回）	①小中研究での取組、OJT、教育長からの支援等により、全体的なスキルは向上したが、家庭での効果的な活用に個人差がある。児童がタブレットの必要性を実感できた。【3.3】 ②ICT支援員の活用及び教諭同士のＯＪＴを推進したことにより、教諭のICTスキルの向上が高まった。【3.5】 ③小中合同研究会における研究内容の共通理解・共通実践を行った。授業参観や研究協議会及び研究公開等を合同で実施し、コネクト学習等の取組で児童の指導に役立てた。【3.2】 ④⑤月曜日の家庭学習にＡＩドリルを位置付けたり、コネクト学習等に取り組んだりするなど、家庭での活用が図れた。学校でも、ICTの時間（10分）に学年に応じたスキルを向上を図ることができた。また、コロナ関連で欠席した児童については、保護者の了解のもと、可能な限りオンライン授業を実施した。【3.3】	①※児童「タブレットは勉強のためになりますか」 ◎80.6%、〇19.4%→100%　※R3（95%） ※6年「ICTは勉強に役立つ」 ◎81.8%（全国65.5%） ※保護者「タブレットなどの機器を活用しながら、教師は分かりやすい授業づくりに取り組んでいる。」 ◎84%、〇16%　※R3（◎63.3%、〇36.7%） ④※児童「おうちでタブレットを使っていますか」 ◎37.3%、〇44.8%、△13.4%、×4.5% ※R3（◎45.2%、〇35.6%、△15.1%、×4.1%）	3．3		①②③OJTや小中合同研修会等の取組を通して、教師や児童のICTスキルを高めるとともに、ICTを活用した効果的でわかりやすい授業改善に努める。 ①④家庭での活用に学年差があるため、発達段階に応じた指導をもとに日常化を図る。学習支援ソフト等の積極的・効果的な活用を図り、確実な学びの定着を図る。 ⑤上級生の活用や児童同士の教え合いをさらに充実させる。		欠席児童へのオンライン授業の取組は、本村の特色を生かしてる。 ICT活用は、今後も家庭と学校で連携しながら、児童の指導に生かしてほしい。
	(3)　望ましい学習習慣と態度を身に付けるための支援	①　学習指導部提案による共通実践事項の徹底を図る。（学習態度、学習用具、教室設営、板書、「声のものさし」等） ②　家庭・保育園・中学校及び関係機関と連携し、個に応じた指導を行う。	①「声のものさし」を掲示したが、いきいき文化祭など、場に応じた声の大きさや出し方等の個に応じた事前指導が必要である。【3.1】 ②配慮の必要な児童や家庭のニーズに応じて、関係・専門機関（るびなす支援学校、エリアCO、SC、SSWなど）を積極的に活用し、専門家の助言をもとに支援することができた。職員間の共通理解や、さらなる保護者と連携を密にし、より丁寧な指導が必要である。【3.0】	①※児童「先生の話を聴いてますか」 ◎53.7%、〇44.8%、△1.5% ※R3（◎67.1%、〇27.4%、△5.5%） ※保護者「家庭では､基本的な生活習慣が身についている。」◎20%、〇68%、△12%	3．1		①②③年度当初に、学習の習慣付けを共通実践し、しっかりと定着させる。特に「人の話を聴く」習慣を家庭と連携し、SWPBSでの実践事項に取り入れることを検討する。第2・第3層支援の児童は、全職員で指導方法を共通理解し、体制を整備するとともに家庭と連携し個別指導を充実する。今後も、関係・専門機関を活用し、専門的な助言のもとで対応にあたる。		学習習慣定着のための手立てが十分になされている。学力の向上に繋がることを期待したい。
	(4)　表現力の向上及び場の設定	①　授業中における対話的な学習の充実と効果的な発問の工夫改善を図る。（「つぶやきによる発表」、「挙手させる発表」、「意図的指名」により全児童が発表） ②　校内での発表及び外部（他校や地域のとの交流）の方への発表機会や場の設定により、各自の表現力を高める。	①どの授業おいても､ペアやグループで対話的な学習を位置づけるとともに、教師の発問や指示の精選に努める必要がある。【3.0】 ②隈府小学校や妻南小学校とのオンライン学習による交流やイキイキ文化祭での発表の場の設定により、人前でも臆することなく発表する態度が少しずつ身についてきている。【3.1】	①※児童「友だちと話し合って勉強してますか」 ◎46.3%、〇38.8%、△10.4%、×4.5% ※6年「自分と違う意見について考えるのは楽しい」 ◎63.6%（全国30.4%）	3．1		①西米良授業チェックの「発問・指示」を意識して指導を行う。 ②日々の学級での授業はもとより、集会、イキイキ文化祭、他校とのオンライン交流、地域の方との授業など様々な発表の機会をとおして表現力向上に努める。		高校からの自立した生活に向け、人前でも堂々と話せる人に育ってほしい。
	(5)　読書指導	①　学校図書館の積極的な活用及び環境整備を行う。 ②　学校と家庭をつなぐ「読書手帳」を作成・活用し、読書量の個人差を少なくする。 ②　毎週木曜日の朝の時間「読書の日」、毎月23日の「あさよむ（親子読書）の日」及び「あさよむ号巡回」の利用など、全校統一した実施により、読書意欲の向上を図る。	①図書選定、相澤文庫、村からの寄贈等により、本に親しむ機会を増やすことができた。また、本の増加やプログラミング教室の実施に伴い図書室整備を図る必要がある。【3.0】【3.1】 ②「読書手帳」「図書システム」から、児童の読書量等の把握はできたが、読書量の個人差が大きい。【2.6】 ③　読書機会を設定し全校的に取り組んだ。あさよむ号巡回では、毎回楽しみにしている児童が多い。	③読書量調査結果：6415冊：平均1人99冊（R5.2.6） １人あたり年間読書量差（最多303冊、最小25冊） ※R3(7,104冊：平均1人96冊） １人あたり年間読書量差（最多229冊、最小25冊） ※保護者「家庭の日や本の貸出によって、読書への興味・関心は高まっている。」 ◎48%、〇20%、△24%、×8% ※児童「おうちで本を読んでいますか」 ◎25.4%、〇40.3%、△28.4%、×6%	2．9		①長期休業中に全職員で、本の精選や図書室の片付け・整備を行う必要がある。 ②③読書手帳の効果的な活用を図るとともに、朝の読書や国語と関連付けた取組を行う。また、読書習慣や読書意欲を向上をさせるため、今後もさらに家庭と連携した具体的な取組が必要である。		家庭への啓発を含めて、連携した指導に努め、豊かな知識を身に付けてほしい。
	(6)　外国語活動・外国語の指導	①　６年生においては、中学校兼務教諭による全体指導及びＡＬＴとの連携に努め、学担を含め３人体制での指導の充実を図る。 ②　５年以下においては、ＡＬＴとの連携した授業により、苦手な児童への働きかけや下位層の学力向上に努めるとともに、外国語に親しむ態度を培う。 ③　評価テスト（5・6年）による学習内容の定着及び指導の充実を図る。	①中学校教諭及びＡＬＴとの連携による指導で、より専門的かつネイティブな発音等の指導が充実してきた。【3.0】 ②３～５年において、担任とＡＬＴとの連携した指導により、苦手な児童へ個別に指導ができた。【3.2】 ③評価テスト結果を個別の指導に生かすことができた。【3.0】	※「外国語の勉強は好きですか」 ◎51%、〇32.7%、△14.3%、×2% ※5.6年外国語単元テスト平均90点	3．1		①②児童の意欲や学力状況を把握し、さらに関心意欲を高める授業改善を図る。また、指導者の役割分担を明確にし、指導方法や結果を共有し評価に生かす。		これからの社会では必須であるため、外国語に対して関心意欲を高めてほしい。
	(1)　生徒指導の充実及び　いじめ・不登校の未然防止と早期対応	①　生徒指導の三機能（自己決定の場と自己存在感を与え、共感的人間関係を構築）を生かした学級経営や授業改善に向けて、「自己指導能力を育成を目指した授業づくりの視点表」を定期的に活用及び自己評価し、意識付けを図る。 ②　常在危機意識をもち、いじめの未然防止及び早期発見に向けた組織的な取組に努める。 （教育相談、アンケート調査、いじめ不登校対策委員会、家庭や児童クラブ、メラスポ、スポ少等との連携強化と情報共有） ③　「いじめ防止基本方針」に基づいた共通実践の徹底を図る。	①「自己指導力の育成を目指した授業づくりの視点表」に基づいて自己評価をしながら、授業に取り組むことができた。【3.0】 ②毎月のアンケートをもとに教育相談を実施し、月1回の会議で、気になる児童の言動や行動を共有し指導ができた。職員は児童クラブに足を運び、児童クラブ職員と児童理解や対応など会話をとおして連携できるようになってきた。また、児童クラブやスポーツ少年団の指導者との連携を密に児童の指導を行った。【3.1】 ③　職員連絡会等で、随時、「いじめ防止基本方針」に従い、対応できた。また、懸案事項やトラブル等について、早期対応に努め、組織的な対応に努めた。【3.0】	①※職員自己評価達成率75%（全20項目） ※児童「学校は楽しいですか」 ◎62.4%、〇34.3%、△1.5% ※6年「人が困っているときは進んで助ける」 ◎81.8%（全国44.9%） ※児童「友だちからたたかれたり、悪口を言われたりしたことがありますか」 とても9%、ある19.4%、あまり20.9%、ない50.7% ③※保護者「学校や学級での取組によって、いじめや不登校の早期発見、未然防止につながっている。」 ◎60%、〇28%、△12% R3(◎46.7%、〇43.3%、△3.3%、×6.7%）	3．0		①「自己指導能力を育成を目指した授業づくりの視点表」を生徒指導の三機能を生かした学級経営や授業を行っていく。 ②③教育活動全体をとおして、相手を思いやる心の育成に努める。いじめや不登校等問題においては、常在危機意識の向上にさらに努め、家庭との連携を強化する。また児童クラブ・メラスポ・スポ少等との情報の共有を図り、早期発見・早期解決に努める。		児童や保護者への対応など、大変かと思うが学校や関係者が一体となって、相手を思いやる心の育成やいじめ・不登校等問題等の解決に努めてほしい。

令和４年度　西米良村立　村所小学校　自己評価書及び学校関係者評価書

学校経営ビジョン 地域に根付く「菊池の精神」を背景に、「あたたかい関わり」と「見届け」を基盤とし、一人一人の個性を認め、伸ばし、望ましい行動を強化するとともに、児童が自分の成長を実感できる教育を学校、家庭、地域が一体となって推進する。

【評価基準　４段階評価　４…期待以上　３…ほぼ期待通り　２…やや期待を下回る　1…改善を要する】

評価項目	重点指導項目	方策・手立て	成果と課題	成果指標	自己評価（4 3 2 1）	総合	改善策	評価	学校関係者評価委員の意見
２　豊かな心（自己指導能力）の育成	⑵　個のよさを認め、個に応じた適切な支援の実施	①　スクールワイドＰＢＳ（児童のできた！を引き出す積極的な行動支援の推進）の考え方に基づいた集団や個への関わり方及び校内支援体制の充実を図る。 ②　特別支援教育の視点を踏まえた個別指導の充実を図る。 ③　「個別の指導計画」や家庭と連携した「個別の教育支援計画」の整理と活用を図る。 ④　るぴなす支援学校やスクールカウンセラー等との関係機関からの指導助言を生かす。	①②県実践協力校の指定を受け、大学教授と連携し研修を実施した。第1層支援として、望ましい行動を積極的に称賛することに努めた。第2.第3層支援は、さらなる個別指導が必要である。【3.1】 ②かがやき委員会等を通して、児童の学力、行動の様子を職員で把握し、支援の在り方など、合理的な配慮に基づいた授業改善に努めた。【3.0】 ③「個別の指導計画」や「個別の教育支援計画」のおいては、特別支援教育コーディネーターを担当とし、各個人に係る資料についても、必ずファイリングし指導に役立てた。【3.0】 ④るぴなす支援学校教諭による児童観察や検査、保護者面談等の実施し、助言に基づき家庭と連携した指導を行った。【3.3】	①※児童「先生からよくほめられますか」 ◎22.7%、○59.1%、△18.2% R3（◎27.1%、○53.4%、△17.8%、×1.4%） ※6年「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」 ◎54.5%、○45.5%、△0%、×0% 全国（◎46.3%、40.8%、△9.4%、3.4%）	3.0	3.1	①②③④スクールワイドPBSに基づいた考え方や組織的対応、個への関わり方について、今後も専門家の助言をもらいながら、研修を計画していく。配慮の必要な児童への対応について共通理解・共通実実践が必要である。「個別の指導計画」等の活用を図り、今後も保護者・関係機関との連携を密にしていく。	3	児童同士でふざけ合いなど、未熟な面があると思われるが、個別に対応して、様々な問題を解決してほしい。
	⑶　基本的な生活習慣の指導	①　生活指導部提案による生徒指導年間計画による指導の徹底（習慣形成、児童理解、教育相談、安全指導、環境美化、勤労奉仕）を図る。 ②　「村所小学校よいこの１日」に基づいた具体的指導の充実を図る。 ③　保小中一貫教育連携会議による「あいさつ運動」における主体的な取組と評価（児童、保護者、地域）に努める。　※「プラスワンあいさつ運動」の徹底	①②全職員での共通理解のもと指導を行い、随時、朝・帰りの会や学級活動等の時間に、具体的指導を実施した。【3.2】【3.0】 ③スクールワイドPBSの取組として、生活委員会があいさつキャンペーンを実施したことにより、名前を一言付け加えるプラスワンあいさつ運動への意欲が高まった。ＰＴＡ活動としても、始業式の朝にあいさつ運動を実施した。【3.1】	②※児童「おうちの外や登下校中、会った人にあいさつをしてますか」 ◎66.7%、○25.8%　△6.1%　×1.5% R3（◎82.2%、○11.0%、△4.1%、×2.7%）	3.1		①②③今後も家庭や保育園・中学校との連携をとおして、あいさつ運動へのさらなる意欲向上に努め、新たな取組が必要である。 ②「村所小学校よいこの１日」について、定期的に自己評価など振り返りが必要である。		プラスワンあいさつを今後も継続してほしい。
	⑷　安全教育、防災教育の充実	①　「自分の命は自分で守る」「気付き考え行動する」の合言葉による意識付けと集会での全体指導、日常の学級での具体的指導に努める。 ②　関係機関や地域と連携した安全教育及び防災教育の充実を図る。（警察や役場、県土木事務所、消防団等）	①台風や交通安全など、集会での全体指導、日常の学級での具体的指導を行い、合い言葉の確認を行った。【3.1】 ②警察や消防団等を招聘して、交通教室や防災教育を実施した。また、ＰＴＡ地区集会から出た危険箇所を、関係機関と危険個所点検を実施し、対策を講じた。横断歩道が「みちくさ」前に移設され、安全指導に努めた。【3.3】	①※児童「道路では車をよく見て、歩いてますか」 ◎80.6%、○14.9%、△4.5%	3.2		①②保護者、警察や役場、県土木事務所等と対話をとおした連携に努め、安全指導の徹底や安全環境の整備に努め、常在危機意識をもって指導にあたる。		今後も様々な関係機関との連携を期待したい。
	⑸　児童の主体性を生かした活動の充実	①　児童の上級生のリーダーシップを図るとともに、児童に達成感を味わわせる日常的な取組の充実を図る。（登校班、清掃、係活動、朝ボラなど） ②　縦のつながりのある活動や児童の企画力・主体性を生かした各委員会での取組の充実を図る。※「みんなでつくる学校」の具現化を目指す。	①上級生のリーダーシップのもと、登校班、清掃、集会準備、朝ボラ等に活発に取り組むことができた。【3.4】 ②運営委員会では、自分たちでアンケート調査結果をもとに、「タブレット使用のきまり」を作成・提案するなど、各委員会のアイデアを生かす主体的な取組やICTを活用した発表が行えた。【3.1】	①※6年「人が困っているときは、進んで助けていますか。」 ◎81.8%、○18.2%、△0%　×0% 全国◎44.9%、○44.0%、△9.3%、×1.7% ※6年「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」 ◎72.7%、27.3%、△0%、×0% 全国◎75.1%、○20.0%、△3.4%、×1.5%	3.2		①上学年のリーダー性を意図的に発揮する場を設定し、全職員で称賛するなど、さらなる意欲向上への働きかけが必要である。 ②行事や委員会、ICTの時間など、上級生を中心に「みんなでつくる学校」への意識を高める。		自分たちの学校という意識、児童が主体的に活動する教育に努めてほしい。
３　たくましい体づくり（自己健康管理能力）の育成	⑴　規則正しい生活の指導	①　学校保健委員会を核に家庭と連携した取組（メディアや食生活や生活習慣など）に努める。 ②　学校歯科医や家庭と連携した歯磨き指導の充実（むし歯治療率向上）に努める。 ③　養護教諭によるティームティーチングによる授業を実施するとともに、今後も家庭と連携し日々のきめ細かな保健指導に努める。 ④新型コロナウイルス感染拡大防止による感染症対策に努める。	①学校保健委員会では、排便調査結果から、学校医の片山先生の講義を実施し、家庭での食事や健康等への意識が高まった。養護教諭は、日常の細かな指導だけでなく、学級で積極的に授業を行い保健指導が充実できた。【3.2】 ②学級活動で理絵先生による歯磨き指導を実施し、給食後の歯磨き指導やフッ化物洗口指導の指導が充実した。【3.2】 ③保健室来室への対応や遅刻児童への対応、さらに歯磨き指導や排泄等の指導など、養護教諭が児童に積極的に関わるとともに担任・保護者と連携した指導ができた。担任と連携しティームティーチングによる授業も充実した。【3.3】 ④個人用消毒スプレーを配付した。熱中症対策も考慮し、マスクを着用する時、外寸時の基準を設けた。	※保護者「保健指導や健康診断、健康だより等による家庭との連携によって、児童の保健・安全への関心を高めることにつながっている。」◎72%、○28% ※児童「ウンチは毎日出ていますか」 毎日52.2%、2日に1回35.8%、3日に1回4.5%、4日に1回7.5% R3（毎日52.1%、2日に1回27.4%、3日に1回8.2%、4日に1回12.37%）	3.2	3.1	①今後も児童や家庭の抱える問題を取り上げ、学校と家庭と連携した取組を行う。 ②③新型コロナウイルス感染拡大防止による感染症対策を徹底する。また、養護教諭によるＴＴによる授業を実施するとともに、今後も家庭と連携し日々のきめ細かな保健指導に努める。	4	学校と家庭で連携して、児童の健康維持を図ってほしい。
	⑵　食育の推進	①　地産地消や創意工夫ある献立づくりに努めるとともに、残食率低下を目指した給食指導の充実を図る。 ②　栄養教諭とのティームティーチングによる授業を実施し、食への関心を高めるとともに、はしの持ち方など食事マナーの向上に努める。	①残食調査を行い個人差はあるが、残食を減らすことができた。給食では、各学級で個人に応じた量の配膳を行った。栄養教諭は授業を行い、毎日の給食指導にも積極的に関わることができた。【3.1】 ②栄養教諭は担任と連携しティームティーチングによる授業を行ったり、毎日の給食指導にも積極的に関わったりするなど充実した指導ができた。【3.3】	①※学校残食調査（残食重量割合　6月0.7%→11月0.3%） ※児童「食事をするときは、食器を持って食べていますか」◎76.1%、○16.4%、△7.5% R3（◎69.2%） ②※保護者「西米良の食材を取り入れ、メニューの工夫や、給食だよりの発行、掲示物による啓発等によって、望ましい食習慣の育成につながっている。」 ◎88%、○12%	3.2		①②地産地消のバラエティー豊かな献立等にさらに充実させ、児童の食への関心やマナー意識の向上に努める。また、栄養教諭によるTTの授業や巡回指導も継続して行う。		普段から西米良村の食材を活用し、食育についても工夫してもらっていることがありがたい。
	⑶　基礎体力向上	①　立腰指導の徹底を図る。 ②　体力テストＤＥ段階の割合の減少を目指し、「体力向上プラン」に基づいた教科体育の充実（一人一人の運動量を確保）を図る。	①各学級のおける毎時の始まりや集会時の始まりなどに、立腰指導を行ってきたが、今後も継続していく必要がある。【2.9】 ②③体育専科の授業により、運動への関心が高まってきた。体力テストの結果をもとにした体力向上プランを作成した。体力結果は学年差や個人差があり、全体では「握力」「長座体前屈」「ボール投げ」が課題であったため、朝の体力向上の時間や教科体育のなかで取り組んだ。（体力テスト結果　A判定１５%、E判定３%）【2.7】【3.0】	②③※体力テストDEの割合：各学年差の幅　0%～44% ※保護者「体育の授業や体力向上の時間（わくわくタイム）での取組は、児童の体力向上につながっている。◎84%、○12%、△4% ②※児童「運動をすることは好きですか」 ◎79.1%、○13.4%、△4.5%、×3% R3（△8.3%、×1.4）	2.9		②③教科体育の中で、「握力」「長座体前屈」「ボール投げ」について重点的に指導を行う。また、家庭と連携し、今後も運動の日常化を目指す具体的な取組が必要である。		運動の苦手な児童に、個に応じて支援をし、体力向上に努めてほしい。
４　家庭・地域及び関係機関との連携強化	⑴　学校と地域の関係機関・団体との連携・協力体制の充実	①　ふたば園、中学校、関係団体等との連絡を密に行い、連携協働に努める。（PTA、公共機関、社会福祉協議会、学校運営協議会、、学習支援ボランティア、社会教育関係団体、民生委員・児童委員、人権擁護委員、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーなど） ②　地域の中の学校として、学校運営協議会による学校経営方針の承認及び協力支援の充実に努める。 ③　豊富な地域資源を活かしたキャリア教育の充実　※「ふるさと西米良学」の活用 ④　教師の人権教育やコンプライアンス研修の充実を図る。	①ふたば園、中学校、関係団体等との連絡を密に行い、情報を共有し、連携協働に努めた。家庭が抱える問題等については、担任や管理職が積極的に関わった。特に、特別支援教育では、るぴなす支援学校や保護者の悩み相談として、SSW、SCなど、積極的に活用し、児童や保護者の支援の充実を図った。【3.0】 ②学校運営協議会では、学校の経営方針を理解いただき、地域との連携協働に努めることができた。PTAや地域行事への参加について、可能な限り参加に努めた。【3.0】 ③台風によるペロリ農園までの道路事情により、一部活動ができなかったが、今後道路の復旧の方向に向かうことで来年度も計画する。【3.3】 ④、毎月１回自己評価を実施し、夏季・冬季休業中にコンプライアンス研修を行った。コンプライアンス標語を作成し、掲示したり、職員不祥事などは、終礼などで随時、職員へ伝達したりするなど啓発に努めた。	※児童「西米良のよいところがわかりますか」 ◎76.1%、○19.4%、△4.5% ※保護者「教職員は、確かな人権感覚をもって子どもに接し、コンプライアンス（法令遵守）を実践している。◎76%、○20%、△4% ※保護者「教職員は、地域行事やＰＴＡ行事に積極的に参加し、交流や連携を図っている。」 ◎56%、○44%	3.1	3.3	①②③④今後も外部機関との連携を密に行っていく。また、PTAや学校運営協議会、学習支援ボランティアなど連携・協働に努め、保護者の困り感への対応として、SSWやSC等の積極的活用を継続する。 ②目指す西米良児童の姿を共有し、指導方針を一貫するため、学校運営協議会で熟議を行う。 ③地域人材を活用した授業を可能な限り取り入れる。「ふるさと西米良学」「キャリアパスポート」の充実を図る。 ④コンプライアンス意識を継続するようこれまでの取組をさらに充実させる。	4	外部機関との連携を今後も深めながら、西米良のよさを教えてほしい。
	⑵　家庭や地域への情報の積極的な発信と共有	①　保護者・地域の方と積極的に関わるとともに、個人情報の取り扱いに注意し、情報発信・情報収集に努めていく。 ○　村所小ホームページの充実　※R3実績98,754回 ○　各通信の充実（学級・学校通信、生徒指導・保健・給食通信など） ②　「まちコミメール」の効果的活用	①学級通信や学校通信、学校ホームページ等を活用し、学校の取組を積極的に発信できた。アクセス数が倍増している。【3.5】【3.3】 ②マチコミメールについては、災害時や緊急時など活用を図ることができた。【3.4】	②※学校ホームページアクセス数 R4.2.8（206,624件） ※保護者「学校だより（おがたま）、学級通信、通知表、学校のホームページなどの、学校から情報提供がなされている。」◎76%、○24%	3.4		①②③人権への配慮及び個人情報の取り扱いに注意し、今後もＨＰや学校通信等で情報収集・発信に努めていく。学級や個人によって、ＨＰ掲載回数に差がないよう、材料提供の在り方、担当への負担を減らす運営の在り方を検討していく。		ホームページのアクセス件数には目を見張るものがある。今後も更新に努めてほしい。